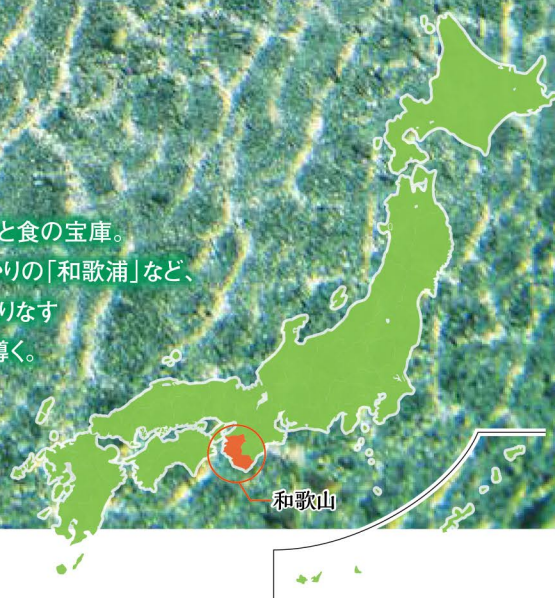


今、注目の 和歌山へ

本州最南端の紀伊半島に位置する和歌山県は温暖で土地の起伏に富み、自然と食の宝庫。また、世界遺産「高野山」「熊野」のほか、2017年4月に日本遺産に認定されたばかりの「和歌浦」など、歴史・文化に関連するスポットが数多くある。和歌山県には数々の自然と歴史が織りなす「ここだけにしかない」魅力や場所がいっぱい。訪れる人を感動と驚きの世界へと導く。



Content

- 2-3 「水の国、わかやま。」が伝える和歌山の“水”の素晴らしさ
- 4-5 サイクリング王国わかやまへ WAKAYAMA800 始動!!
- 6 世界遺産の二大聖地へ
- 7 日本遺産の`三物語、を巡る
- 8-9 魅力いっぱいの南紀白浜
- 10 `ほんまもん体験、
- 11 おすすめのお出かけスポット&イベント
- 12 アクセスガイド 科学博物館・エネルギー関連施設ガイド

祝 日本で唯一選ばれました!
訪れるべき世界の地域

第**5**位
「紀伊半島」

ロンリープラネット「ベスト・イン・トラベル2018」



水と緑が織りなす絶景が続く百間山溪谷

ひゃっけんざん 百間山溪谷 (田辺市)

問い合わせ | 大塔観光協会 ☎0739(48)0301

百間山の南西斜面に全長約3^{キロメートル}にわたって広がる「百間山溪谷」。原生林の中の溪流沿いに大小30余りの滝や数え切れないほどの巨岩奇岩が連なり、自然の造形美を繰り広げている。溪流沿いには初心者でも楽しめるトレッキングコースがあり、心と体を癒やしてくれる。

溪谷入口近くの「梅太郎淵」の岩上には樹齢約500年の「馬目の木」があり、また、隣の滝の上部には樹齢約300年のカヤの大木がかぶさっていたことから「かやの滝」と称されるようになった。さらに、約500^{メートル}入った「ふたおい釜」は滝底に直径5^{メートル}の窪みがあり、約1^{キロメートル}入った所にある高さ10^{メートル}の「雨乞いの滝」など変化に富んだ滝が続くほか、約3^{キロメートル}先には山岳仏教の名残りといわれる「千体仏」がある。



“水の森”を歩く百間山溪谷トレッキング

和歌山の“水”の 素晴らしさ

「水の国、わかやま。」が伝える

紀伊半島の豊かな自然から生まれた“水”。その水は和歌山県民の暮らしだけでなく、景観や温泉、アクティビティなどにも欠かせない要素だ。和歌山県では、この“水”を前面に出して県観光の魅力を発信し、新たな旅のスタイルを提案する「水の国、わかやま。」キャンペーンを2016年7月から開始。そのテーマは「水を見る」「水が創る」「水が育む」「水に寄り添う」「水を活かす」「水と遊ぶ」「水を育む。」と多岐にわたる。例えば「見る」は串本・橋杭岩などの絶景、「聖なる」では高野山などの古社・古刹、「遊ぶ」では水辺のアクティビティなどのテーマごとに、“水”にまつわる魅力をアピールしている。ここではその幾つかを紹介する。



国指定の天然記念物「一枚岩」

白崎海岸 (由良町) 次の滝 (有田川町)

問い合わせ | 由良町観光協会 ☎0738(65)2522
有田川町観光協会 ☎0737(52)2111



白亜の岬が続く白崎海岸

和歌山県有数の景勝地である「白崎海岸」(由良町)。付近は白崎海岸県立自然公園に指定され、日本の渚百選にも選定されている。白い石灰岩で囲まれた白崎海洋公園を中心にダイビングスポット、海水浴場が多数あり、黒島周辺や由良港は海釣りでもにぎわう。また、水仙の群生地や10万株以上の水仙が植えられており、白と黄色の可憐な花と甘い香りは冬の白崎海岸に美しい景観を与えている。

有田川町にある「次の滝」は、日本一の落差を誇る「那智の滝」に次ぐ高さ(落差約46^{メートル})であることから名付けられたといわれる。滝を裏から見ることもでき、水しぶきがかかる近さで迫力は満点だ。



角度と距離によって様々な表情を見せる名瀑「次の滝」

「水の国、わかやま。」キャンペーンに関する問い合わせ

和歌山県観光振興課 ☎073(441)2775
和歌山県観光連盟 ☎073(422)4631

詳しくは
水の国、わかやま。

検索



古座川 (古座川町)

問い合わせ | 古座川町産業建設課 ☎0735(72)0180
古座観光協会 ☎0735(72)0645



空飛ぶカヌー



無数の岩穴が見られる「滝の拜」



清流・古座川

熊野の中央に位置する大塔山から熊野灘まで約60^{キロメートル}にわたって続く全国有数の清流であり、“クリスタル・リバー”とも呼ばれる古座川。この川には天然記念物のオオサンショウウオやアユなど40種類を超える生き物がすんでおり、川に落ちると水中だと感じられないほど澄み渡っている。

また、古座川は様々な表情を見せる。古座川町相瀬地内にある国指定の天然記念物「一枚岩」は高さ100^{メートル}、幅500^{メートル}の一枚の大きな巨岩で、川淵からそそり立つ姿は重厚。四季折々に桜やセッコクなどの花々が咲き乱れ、変化のある景観を楽しむことができる。

古座川町小川にある「滝の拜(たきのはい)」も魅力的なスポットで、夏には滝壺に鮎が集まり、それを素針で釣るために連日、大勢の釣り人でにぎわう。

大自然を体験できる点も古座川の大きな魅力であり、代表的なものが年間を通して楽しめるカヌーである。古座川で、春には桜のお花見をしながら川を下るのもよし。夏には泳いだり、川エビを取ったりするのもよし。きれいな川原で小鳥のさえずりを聞きながらのんびり昼寝をするのもよし……。自分のスタイルを見つけ、“川遊び”を楽しんでみよう。



「有田川コース」では棚田「あらぎ島」は必見

有田のシンボリックな景観を目指して

有田川コース

有田川に沿って山あいに行く「有田川コース」では川から立ち上がる涼風に包まれながらのサイクリングが心地良い。コースには蔵王橋をはじめとする見所がたくさんあるが、河岸段丘地形を利用した棚田「あらぎ島」はまさに必見。国道480号線から眺めると水田から吹き抜ける風が気持ち良く、四季ごとの美しい景色が楽しめる。



三川ダムにかかるスリリングな吊り橋の蔵王橋



三川ダムからの涼風が心地よい

太平洋が生み出す雄大な景色と併走

海岸コース(紀南ルート)

県南部の海岸線を走る「海岸コース」。「円月島」(白浜町)、「橋杭岩」(串本町)など、壮大な景色が次々と現れる。

このうち、白浜町のシンボルとして親しまれている円月島は、島の中央に円月形の見通し洞がぽっかり開いていることから「円月島」と呼ばれる。

すさみ湾に浮かぶ稲積島や湾内の停泊船をシルエットにして枯木灘に沈む夕陽は、額に納めた大自然画のよう。この海岸線は絶景ポイントが続くほか、車の通行量も少ないのでサイクリストに嬉しいコースとなっている。

また、串本に向かって走ると約850mの列をなして大小40余りの岩柱がそそり立っているのが見えてくる。規則的な並び方が橋の杭に似ていることから「橋杭岩」という名前がついた。この奇岩にはその昔、弘法大師と天邪鬼が一晩で橋を架ける賭けをして、一夜にして立てたという伝説が残る。吉野熊野国立公園地域内にあり、国の名勝や天然記念物に指定されている。



「海岸コース」の代表的な絶景ポイント「すさみ海岸」



「海岸コース」の見どころのひとつである串本の海と奇岩が織りなす名勝「橋杭岩」



エメラルドの海に浮かぶ白浜のシンボル「円月島」

サイクリング王国わかやまへ WAKAYAMA800 始動!!



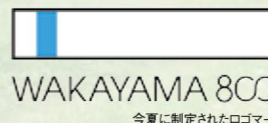
～800kmを超えるロードは、∞(無限大)の楽しみ方と可能性を提供～

爽快さ、楽しさを気軽に体験できるだけでなく、健康増進の効果的なツールとしても今、全国的なブームとなっているサイクリング。和歌山県では2017年度から安全・安心・快適なサイクリング環境を提供するため、様々な取り組みを行っている。

和歌山には自然豊かな美しい景色でサイクリングを楽しめるコースが県内全域にわたって幾つもある。心地よい川、山、海の風を感じながら「サイクリング王国わかやま」を実体験しよう!

「WAKAYAMA800(わかやまはっぴやく)」

和歌山県は全県に約800kmにわたるブルーラインを整備し、サイクリストを歓迎する県であることを親しみがあり、呼びやすく覚えやすいネーミングとした。800の「8」を横にすると「∞(無限大)」。和歌山県にはあらゆるレベルのサイクリストに対応する、サイクリングに適した無限大のルートがあり、サイクリングの楽しさが多いことも表現している。ロゴマークの長方形の左端の青線はブルーラインを、800の「00」を無限大マークで表現している。



ブランディング映像公開中



詳しくは

サイクリング王国

検索

紀の川サイクリングロード



和歌山サイクリングMAP



太平洋を望む海岸線、森林と渓谷、田園風景など自転車での旅に適した景観が目押ししの和歌山県。県内全域で地域の魅力を楽しみながらの観光や健康づくりを促進するため、全国的にも珍しい取組として利便性、安全性を備えたサイクリングロードと周遊ルートの整備を進めている。道路に青色のライン(ブルーライン)の整備することで、自動車運転手にも注意を促しながらサイクリストが安全にサイクリングを楽しめるよう誘導している。また、県内各地には、バイクラックや空気入れ、修理道具などを備えた「サイクルステーション」68カ所、「レンタサイクル」39カ所、「パーク&サイクル駐車場」32カ所を設置しており、今後、随時拡大する。さらに、県内宿泊施設に呼びかけ、自転車を客室に入れることを可能にしたり、修理道具を貸し出すなど「サイクリストに優しい宿泊施設」の充実にも取り組む。

このほか、県内のおすすめ周遊ルートやビューポイントなどの情報を掲載したサイクリングマップを作成し、配布している。

和歌山のサイクリングロードとは!!

県内全域の約800kmに渡って道の両側に引かれたブルーライン(青色の線)は、サイクリング推奨ルートを示し、海・山・川の自然を感じながら自転車で周遊できる。ルート上には、路面標示や案内板が整備され、平坦あり起伏ありの多彩なコース設定も魅力。実線は自転車歩行者専用道路、破線は車の交通量が少ない区間を表している。



(路面標示)

(案内看板) ※写真はイメージです

日本遺産の“三物語”を巡る

2017年4月、「絶景の宝庫 和歌の浦」と「『最初一滴』醤油醸造の発祥の地 紀州湯浅」が日本遺産に登録された。2016年の「鯨とともに生きる」の登録と合わせて和歌山県内の日本遺産の認定は3件で、それぞれの歴史、伝統文化を伝えるストーリーがまとめられ、魅力がいっぱい。これらの地を訪ねて、その物語をひも解いてみては。

「日本遺産」とは地域の歴史的な魅力や特色を通じ、わが国の伝統・文化を語る「ストーリー」を文化庁が認定する制度。「ストーリー」のもととなる有形・無形の文化財を活用し、地域振興につなげることを目的に2015年に創設された。これまでに全国で54件の「ストーリー」が認定され、様々な文化財群を地域が主体となり国内外へ情報発信している。

鯨とともに生きる (新宮市、那智勝浦町、太地町、串本町)

熊野灘一帯では江戸時代初期に組織的な捕鯨が開始され、地域の一大産業へと発展。鯨は人々の暮らしを支え、その一方で人々は鯨に感謝して活用してきた。

熊野に息づくこうした捕鯨文化のストーリー「鯨とともに生きる」が昨年4月、日本遺産に認定された。

代表的な構成文化財として、太地町には捕鯨の祖である和田頼元の墓があり、古式捕鯨を始めた頼元の存在を知らせる貴重なスポットだ。新宮市の三輪崎の「鯨踊」は古式捕鯨時代の大漁祭りを起源とし、踊りを通して捕鯨の風景を伝えている。また、毎年7月4土・日に執り行われる串本町の河内祭の御舟行事は国の重要無形民俗文化財にも指定。毎年1月に開催の那智勝浦町・塩竈神社の例祭「せみ祭り」は古来からの浦神と鯨の関わりを今に伝える。

太地町立くじらの博物館ではふれあい体験やショーを開催しており、熊野灘ではホエールウォッチングも楽しめる。なお、太地町森浦に今夏オープンした道の駅「たいじ」では、捕鯨文化に関する情報を提供している。

問い合わせ | 熊野灘捕鯨文化継承協議会 (和歌山県観光振興課内) ☎073(441)2777

絶景の宝庫 和歌の浦 (和歌山市、海南市)

「絶景の宝庫 和歌の浦」は和歌山市の国の名勝「和歌の浦」や国の重要文化財「紀州東照宮」、海南市の国の史跡「熊野参詣道紀伊路」を核にストーリーを展開。

そのストーリーでは「潮の満ち引きにより干潟の姿は刻一刻と輝きながら変化し、ここ和歌の浦の情景は一時として同じではない。このまま持ち帰りたいと万葉の歌人は和歌にうたい、多くの文化芸術を育んできた」と強調する。「玉津島神社」背後の巽供山(てんぐやま)、「和歌浦天満宮」や高津子山から臨む景色は息をのむほど美しい。

問い合わせ | 和歌の浦日本遺産活用推進協議会 (和歌山県観光振興課内) ☎073(441)2424

『最初一滴』醤油醸造の発祥の地 紀州湯浅 (湯浅町)

「『最初一滴』醤油醸造の発祥の地 紀州湯浅」のストーリーでは瓦屋根と格子の連なる町並みが印象的な国の重要伝統的建造物群保存地区や、湯浅町の文化財に指定された醤油(しょうゆ)の醸造用具を核に産業としての醤油醸造が産声を上げた歴史や、現代に続く伝統を語っている。

醸造業関連の町屋や土蔵など、近世から近代の建物が残る通り(重要伝統的建造物群保存地区)を散策しながら、醤油が生まれた港町風情を味わいたい。

問い合わせ | 湯浅町まちづくり企画課 ☎0737(64)1112



太地町のくじら祭



名勝「和歌の浦」



昔の風情が今も残る醤油蔵

標高約900m、八葉の峰々に囲まれた山上盆地に広がる高野山は弘法大師・空海が開いた真言密教の聖地。山内は「奥之院」と「壇上伽藍」を二大聖地とし、現在も高野山は僧侶たちが修行を続ける学びの場であるとともに、多くの人々の信仰を集め、親しまれている。弘法大師入定の地「奥之院」は大師信仰の中心となる聖地である。参道沿いには数十万基の供養塔などがあり、民族や宗教の違いに関わらず全てを受け入れる寛容さは高野山が1200年継承してきた精神であり、その魅力となっている。

もう一つの聖地「壇上伽藍」は、弘法大師が真言密教の根本道場を開くにあたり最初に整備に着手した場所で、境内には根本大塔、金堂など19の建造物が建ち並ぶ。

高野山へ通じる祈りの道である参詣道には7つの道が開かれ、「高野七口」と呼ばれるようになった。中でも高野参詣道町石道は主要参詣道として利用され、町石は単なる道標ではなく、参拝者が卒塔婆形町石に礼拝をしながら山上を目指したことを今に伝える。

また、高野山では様々な人に開かれた教えの場として修行体験ができる。代表的な「写経」は経典を書写することであり、仏法を広めるための僧侶の重要な修業の一つである。真言宗に伝わる瞑想法「阿字観(あじかん)」は「阿」という梵字に精神を集中し瞑想が深まれば悟りが実現するといわれ、冬季以外の毎週、月・金・土・日に開催されている。



高野山に関する問い合わせ | 高野町産業観光課 ☎0736(56)3443



「般若心経」を一字ずつ、願いを込めて書き写す「写経体験」



もうひとつの聖地「奥之院」



主要参詣道の「高野参詣道町石道」



高野山

二大聖地のひとつ「壇上伽藍」

世界遺産の二大聖地へ

熊野速玉大社

- 所在地/新宮市新宮1
- 問い合わせ/☎0735(22)2533
- アクセス/JR新宮駅から徒歩で約15分



縁結びの神として信仰が厚い「熊野速玉大社」



西国三十三所 巡礼第一番所「熊野那智大社」

熊野那智大社

- 所在地/那智勝浦町那智山1
- 問い合わせ/☎0735(55)0321
- アクセス/JR紀伊勝浦駅からバスで約30分、バス停「那智山」下車徒歩で約10分



熊野詣の最初の目的地である「熊野本宮大社」

那智山青岸渡寺

- 所在地/那智勝浦町那智山8
- 問い合わせ/☎0735(55)0001
- アクセス/JR紀伊勝浦駅からバスで約30分、バス停「那智山」下車徒歩で約15分



日本一の名瀑・那智の滝を有する「熊野那智大社」

熊野本宮大社

- 所在地/田辺市本宮町本宮
- 問い合わせ/☎0735(42)0009
- アクセス/①JR新宮駅からバスで約1時間20分、②JR紀伊田辺駅からバスで約2時間などで、いずれも「バス停本宮大社前」で下車



日本一の落差(133m)を誇る那智の滝



多くの参詣者が通った熊野古道

日本の観光を歴史的にみると、スタートは巡礼の旅であり、「熊野詣」が日本人の旅の原点といわれている。熊野は古来より神の領域と考えられ、自然の中に神が宿るとされる自然崇拜の聖地である。大自然の中にある熊野に詣でることで、現世の救いと来世の幸せを神々に託すという信仰が生まれ、「蟻の熊野詣」と称されるほど多くの人々が列をなして熊野を目指した。

熊野では信仰の原点となったパワースポットを巡る旅を紹介する。まずは、熊野詣の最初の目的地である熊野本宮大社へ。158段の石段を登り神門をくぐると、檜皮葺の威厳に満ちた社殿が姿をあらわす。熊野本宮大社での参拝を終えたら、次は、大斎原へ。ここはかつて熊野本宮大社が鎮座していた場所で今もなお多くの参詣者が訪れている。熊野本宮大社では、2018年に御創建2050年を迎えるにあたり、様々な記念行事が企画されている。

次の目的地は、熊野速玉大社。鮮やかな朱色の社殿が美しい熊野速玉大社は、夫婦神である熊野夫須美大神(イザナミノミコト)と熊野速玉大神(イザナギノミコト)を主祭神とし、縁結びの御利益があるといわれる。また、2028年には御鎮座1900年祭を迎える。

最終目的地である熊野那智大社は、「那智の滝」を信仰の中心とし、自然崇拜を象徴する場所である。那智の滝を御神体とする別宮「飛瀧神社」にお参りすると、その圧倒的で神秘的な姿に心洗われる。

また、熊野那智大社に隣接する那智山青岸渡寺は西国三十三所観音霊場の第一番所として知られる。2018年に西国三十三所草創1300年を迎えるにあたり、特別拝観など記念事業が展開されている。

熊野関連に関する問い合わせ | 和歌山県観光振興課 ☎073(441)2775 和歌山県観光連盟 ☎073(422)4631

「紀伊山地の霊場と参詣道」に関する問い合わせ

和歌山県世界遺産センター ☎0735(42)1044

紀伊半島に位置し、奈良・三重・和歌山の三県にまたがる紀伊山地。1000〜2000m級の山々が連なり、鬱蒼とした森林に覆われたこの地は古代から自然信仰の対象として、また、仏教が伝来して以降は過酷な山岳修行の場となった。「紀伊山地の霊場と参詣道」として2004年7月に世界遺産に登録されたのは、修験道の拠点「吉野大峯」、熊野信仰の中心「熊野三山」、真言密教の根本道場「高野山」の三つの山岳霊場と、そこに至る参詣道である。

この「紀伊山地の霊場と参詣道」は、「霊場」と「参詣道」およびそれらを取り巻く「文化的景観」が主役であり、日本で唯一、世界でも類を見ない資産として高い価値がある。

「紀伊山地の霊場と参詣道」として世界遺産に登録されている高野山と熊野。この二つの「聖地」は大自然と人、信仰など、様々な営みが作り出してきた特別な世界であり、今もなお人々の「心のよりどころ」となっている。

白浜といえば「夏」のイメージを持つ人が多い。白良浜(しらはま)という名前のとおり、白い砂浜が白浜温泉街にあり、夏のシーズンには、60万人を超える海水浴客でにぎわう。だが、夏だけではなく、泉質抜群の温泉や味覚、絶景など一年中楽しめるたくさんの魅力が白浜にはある。

関西屈指のリゾート地

魅力いっぱい

南紀白浜

魅力

あふれる白浜。2016年10月にクリフダイビングの世界大会が開催された、高さ50mの断崖絶壁「三段壁」、数百万年前の砂岩層が織り成す造形美「千畳敷」、島の中央部に真ん丸の海蝕洞が空いた「円月島」など、至るところに絶景が広がり、観光客を圧倒する。他にも和歌山が生んだ博物学の巨星・南方熊楠翁の偉大な功績の数々が保存されている「南方熊楠記念館」が番所山公園内にある。

交通アクセスも良く、空路は羽田空港から南紀白浜空港まで約1時間10分、1日3往復の運航。車では大阪市内から南紀白浜ICまで約2時間。鉄道は新大阪駅から約2時間30分で到着する。中でも、おすすめは電車の旅だ。

2017年に発足30周年を迎えたJR西日本と、2018年に開園40周年を迎えるアドベンチャーワールドがコラボし、車両前頭部にパンダの顔をあしらひ、車両ボディにはライオンなどの動物たちをデザインした「パンダくろしお」「Smileアドベンチャートレイン」が運行され、人気を博している。今まで以上に白浜までの楽しい電車旅を満喫できる。

一年を通して、「春夏秋冬」いろいろな観光の顔を持ち、観光客を迎える白浜。「観るもよし、食すもよし、お湯もよし」。ぜひ、堪能あれ。

温泉 は白浜を語る上で外せない。白浜町内には、日本三古湯の一つである「白浜温泉」をはじめ、「椿温泉」「日置川温泉」と三つの温泉地がある。「白浜温泉」は源泉温度が高く、泉質はナトリウム塩化物温泉で、湯冷めがしにくく保温効果があるのが特長。「椿温泉」「日置川温泉」は源泉温度が低いアルカリ性単純温泉で、肌触りが柔らかく美肌効果があるのが特長。古来より名湯に多い泉質である。町では、この三温泉地の周遊チケットの販売も予定しており、町内の温泉地を巡って泉質の違いを楽しんでみては。

食 もまた白浜の魅力である。「クエ」は幻の魚といわれ天然物はなかなか水揚げされないが、近畿大学水産研究所が人工化に成功。「近大クエ」として年中提供できるようになり、味も天然に負けず劣らずといわれている。「伊勢エビ」は白浜町の近海で獲れ、秋から冬にかけてが旬。「モチ鯉」は、春先に獲れる鯉のことで、身に脂肪分が少なく弾力があり、つき立てのお餅のような食感からこう呼ばれている。春先に獲れるカツオがすべて「モチ鯉」と呼ばれるわけではなく、傷をつけず、凍らせず、鮮度を保ったまま港へと持ち帰られたものだけが「モチ鯉」と呼ばれる大変希少価値があるものだ。町内のホテルや飲食店で、旬の味を堪能してみては。

温泉



保温効果が抜群の「白浜温泉」(崎の湯)

食



人気の「クエ鍋」



お餅のような食感が絶品の「モチ鯉」



美肌の湯「椿温泉」(道の駅 椿はなの湯)



白良浜の近くで新鮮魚介を堪能できる「フィッシャーマンズワフ白浜」

絶景



白砂とマリブルーが魅力の「白良浜」



数百万年前の砂岩層が織り成す造形美「千畳敷」



50mの断崖絶壁「三段壁」

南紀白浜(和歌山県白浜町)は、年間300万人を超える観光客でにぎわう。温泉、景勝地、観光施設、宿泊施設が充実している観光地であり、特に温泉は657年に有間皇子が当地を訪れ、「牟婁の温湯(むろのいでゆ)」に浴され、齊明天皇にその素晴らしさを伝えられたことでも有名である。観光地としての歴史も古く、昭和30年代は新婚旅行のメッカとして全国にその名をはせた。現在は温泉、景勝地に加え、地元ならではの「食」やジャイアントパンダ5頭が暮らす「テーマパーク」アドベンチャーワールドなどを目的に観光客が増えている。

パンダ



JR西日本が運行する「パンダ列車」



アドベンチャーワールドの人気者・パンダ

- 問い合わせ
- DMO白浜設立準備協議会 ☎0739-43-3201
 - 白浜観光協会 ☎0739-43-5511
 - 椿温泉観光協会 ☎0739-46-0321
 - 日置川観光協会 ☎0739-52-2302

おすすめのお出かけスポット & イベント

おすすめのお出かけスポット & イベント

和歌山に来れば新たな感動が待っている。和歌山を楽しむ旅へ出かけてみませんか。



フェスタ・ルーチェ

11月3日(金・祝)から来年1月28日(日)の間、和歌山市の和歌山マリーナシティで冬季限定イベント「フェスタ・ルーチェ in 和歌山マリーナシティ」が開催されている(2018年1月8日(月・祝)までは毎日開催、以降は金土日祝のみ開催。営業時間:17:00~21:00)。

会場では、まるでヨーロッパにシブトリップしたような気分が味わえるとともに、フォトスポット満載の一面イルミネーションの世界を楽しめる。また、観覧車からイルミネーションを一望することもできるほか、光と遊べる「カラーシャドウライティング」やクリスマスメリゴーランドなど、懐かしも新しい夜の遊園地を体験できる。

今冬にはイルミネーション、遊園地、クリスマスマーケットが一度に楽しめるフェスタ・ルーチェにぜひ出かけよう。

問い合わせ | フェスタ・ルーチェ実行委員会事務局 ☎073(484)3618(平日 10:00~18:00) 詳しくは [フェスタ・ルーチェ](#) [検索](#)



76日間も楽しめる光のフェスティバル

西国三十三所草創1300年



第二番札所「紀三井寺」



第三番札所「粉河寺」

西国三十三所の巡礼は、1300年の歴史を持つ「日本最古の巡礼」である。

長谷寺の徳道上人が巡礼によって人々を救うよう間魔大王からお告げを受け、718年から始めたと伝わるもので、総距離は約1千*ふにに及び、札所は近畿2府4県と岐阜県にある。2020年まで「西国三十三所草創1300年記念事業」と題して各札所では特色ある行事を展開し、その一環として和歌山県内にある「第一番札所・那智山青岸渡寺」(那智勝浦町)、「第二番札所・紀三井山金剛宝寺」(和歌山市)、「第三番札所・風猛山粉河寺」(紀の川市)の各寺院でも特別拝観をはじめ、様々な企画が盛りだくさん。

2018年には普段は非公開の秘仏や宝物をはじめ、内々陣を特別に公開する「特別拝観」を行う。3月末から5月初旬にかけて青岸渡寺は「那智山経塚出土仏像」、紀三井寺は「本堂内陣」を特別公開、粉河寺は「薬師堂御本尊」の御開帳をそれぞれ行う。この機会に観音文化、巡礼文化に触れてみよう。

なお、和歌山県では3寺院に加え、「熊野那智大社」が2017年に創建1700年を迎えたことから、これらを記念した「4社寺巡拝スタンプラリー」を2018年末まで実施中である。3寺院でご祈禱を受けたオリジナルの日本手ぬぐいや、抽選で特別記念硯(那智黒石)を進呈する。

*スタンプラリーの台紙については、和歌山県観光連盟のHPからダウンロード可能

詳しくは [4社寺巡拝スタンプラリー](#) [検索](#)

3寺院特別拝観の
問い合わせ | 青岸渡寺 ☎0735(55)0001
紀三井寺 ☎073(444)1002
粉河寺 ☎0736(73)4830

和歌山県観光振興課
☎073(441)2775

南方熊楠・生誕150年

南方熊楠翁は和歌山県が生んだ博物学の巨星で、植物学、菌類学者としてのみならず、民俗学の創始者。研究の対象は粘菌をはじめとした生物学のほか人文科学、天文学、鉱物学、宗教学と多方面にわたり、民俗学の分野では柳田国男と並ぶ重要な役割を果たした。その熊楠翁が生まれて今年でちょうど150周年となることから、県内各地で様々な生誕事業が行われている。

このうち、熊楠翁が愛用した品などを集めた「南方熊楠記念館(白浜町・番所山)」が今年3月、生誕150周年の節目にリニューアルオープン。新館には遺品や熊楠翁が作製した標本など約800点が年代順に展示され、「知の巨人」の一生をたどることができる。熊楠翁が研究した粘菌も生きた状態で年間を通じて見ることができる。「南方熊楠記念館」は南紀白浜で熊楠翁の功績に出会える素晴らしい施設である。

記念館の観覧料金は大人500円、小・中学生は300円で、開館時間は9:00~17:00(木曜休館)。JR白浜駅から三段壁方面バス(約15分)「臨海」下車徒歩8分。

問い合わせ | 南方熊楠記念館 ☎0739(42)2872



南方熊楠翁

ほんまもん体験

和歌山県は新しい旅のスタイルとして、旅人が体験を通して地域の自然、歴史、文化、伝統産業などのありのままを触れてもらう、体験型観光を「ほんもの」という意味の方言から名付けられた「和歌山ほんまもん体験」を推進している。体験メニューは350以上取りそろえており、中にはホエールウォッチングなどの自然観察体験や高野山での精神修行(写経や「阿字観」という瞑想)といった、和歌山ならではのメニューもある。

詳しくは [ほんまもん体験 わかやま](#) [検索](#) | 問い合わせ | 和歌山県観光振興課 ☎073(441)2775

おすすめの“ほんまもん体験”

和歌山の中でも、個人向けから団体旅行、教育旅行まで幅広く、特長ある体験プログラムを取りそろえているのが一般社団法人・南紀州交流公社(白浜町、奥山沢美理事長)だ。同公社では、「ありのままの自然や暮らしの中で技術や知識、地域の誇りや生き様を伝え、体験を通して交流することを大切にしている」という。ここに来ればありのままの暮らしの中で「ほんまもん体験」ができる。

【南紀州交流公社】

2008年から、紀伊半島の南部、白浜町日置川地域を中心に南紀州の自然環境と農林漁業の生業を生かした「ほんまもん体験」の受け入れを本格スタート。温暖な気候で、豊かな自然に恵まれ、日本の伝統文化が受け継がれる和歌山らしい体験プログラムが利用できる。農山漁村生活体験(民泊)受け入れ軒数が約100軒あり、一日に約400人を受け入れることができるほか連泊および家業体験も可能。この体験に関わり、指導するのは地域に暮らす人々。公社は、体験を通じた交流は様々な感動を呼び、お互いに心高まる機会にしたいと考え、企画、提案、調整、下見対応、手配などを一括してコーディネートしている。修学旅行や教育旅行、一般旅行、企業の教育研修に活用しては。

詳しくは [南紀州交流公社](#) [検索](#) | 問い合わせ・申し込み | 南紀州交流公社/白浜町安居306-1 ☎0739(53)0055

熊野古道「仏坂トレッキング」

世界遺産・熊野古道大辺路街道が公社のある白浜町を横断しており、熊野古道の仏坂周辺を背景に思いをはせながらできる自然環境を学ぶ。「安居(あご)の渡し」(※参照)も体験でき、語り部とともに、いにしへの旅を再現してみよう。

※「安居の渡し」は熊野古道大辺路「富田坂」を下った「安居」の集落から「仏坂」へ、日置川を渡る渡し舟である。大辺路街道では唯一、舟でわたる熊野古道だ。



林業体験「紀州備長炭作業」

紀州が産する備長炭は「備中屋長左衛門」という名前に由来するといわれ、その手法と独自の窯は和歌山県の無形文化財に指定されている。紀州備長炭作りを通して自然との共生と和歌山の知恵、伝統産業を学んでみよう。



海体験「一本釣り」

黒潮が流れる枯木灘は釣りのメッカ。太平洋に出て一本釣りを体験でき、漁業体験を通じて海洋資源について学んでみよう。船からの景色は素晴らしい一言。



工芸体験「藍染め」

紀州が誇る伝統産業であった紀州本藍を使用した、地元工房での染物体験。本来時間がかかる藍染めだが約2時間と手軽に体験でき、手も染まるくらい濃い天然のインディゴと自然の発色の良さを感じられる。想像力を働かせオリジナルの模様を大判のハンカチにデザインしてみよう。



紀州南高梅体験「梅の収穫作業」

初夏の収穫時期に青梅と完熟梅を収穫する。農作業の楽しさを体験し、作業の後は収穫した梅でジュース作りにチャレンジしよう。



川体験「リバーカヌー」

県立自然公園内の日置川。川底の石まではっきり見える清流を4*ふにほどカヌーツーリングする。川と一体になって大自然のスリルを楽しもう。



※上記メニューで時期、天候などにより体験できない場合や、変更されることもあります。ご確認等は南紀州交流公社にお問い合わせ下さい。

飛行機でのアクセス

南紀白浜空港へ

from札幌 新千歳空港→羽田空港(乗り継ぎ)→南紀白浜空港(約3時間40分)

from青森 青森空港→羽田空港(乗り継ぎ)→南紀白浜空港(約4時間)

from秋田 秋田空港→羽田空港(乗り継ぎ)→南紀白浜空港(約4時間)

東京から南紀白浜空港・関西国際空港へ

from東京 羽田空港→南紀白浜空港(約1時間15分)
羽田空港→関西国際空港(約1時間15分)
成田空港→関西国際空港(約1時間30分)

◎関西国際空港から白浜への電車でのアクセス
関西空港駅→日根野駅→白浜駅(JRで約2時間)

電車でのアクセス

from東京 東京駅(新幹線)→新大阪駅(特急列車)→和歌山駅(約4時間)

from名古屋 名古屋駅(新幹線)→新大阪駅(特急列車)→和歌山駅(約2時間10分)
名古屋駅(特急列車)→紀伊勝浦駅(約3時間40分)

from大阪 新大阪駅(特急列車)→和歌山駅(約1時間)
大阪駅(紀州路快速)→和歌山駅(約1時間30分)

from福岡 博多駅(新幹線)→新大阪駅(特急列車)→和歌山駅(約4時間20分)

from広島 広島駅(新幹線)→新大阪駅(特急列車)→和歌山駅(約2時間10分)

新大阪駅から南紀方面へ

新大阪駅(特急列車)→御坊駅(約2時間)
新大阪駅(特急列車)→白浜駅(約2時間40分)
新大阪駅(特急列車)→串本駅(約3時間20分)
新大阪駅(特急列車)→紀伊勝浦駅(約4時間)

お車でのアクセス

from名古屋 ①名古屋西JCT(東名阪自動車道)→亀山JCT(東名阪自動車道)→伊勢関IC(伊勢自動車道)→勢和多気JCT(紀勢自動車道)→熊野大泊IC(国道42号経由)→新宮市(約3時間)
②名古屋西JCT(東名阪自動車道)→亀山JCT(新名神高速道路)→草津JCT(名神高速道路)→瀬田東JCT(京滋バイパス)→久御山JCT(第二京阪道路)→門真JCT(近畿自動車道)→松原JCT(阪和自動車道)→和歌山IC(約3時間)

from京都 京都南IC(名神高速道路)→草津JCT(新名神高速道路)→亀山JCT→名古屋①ルートに同じ→新宮市(約3時間)

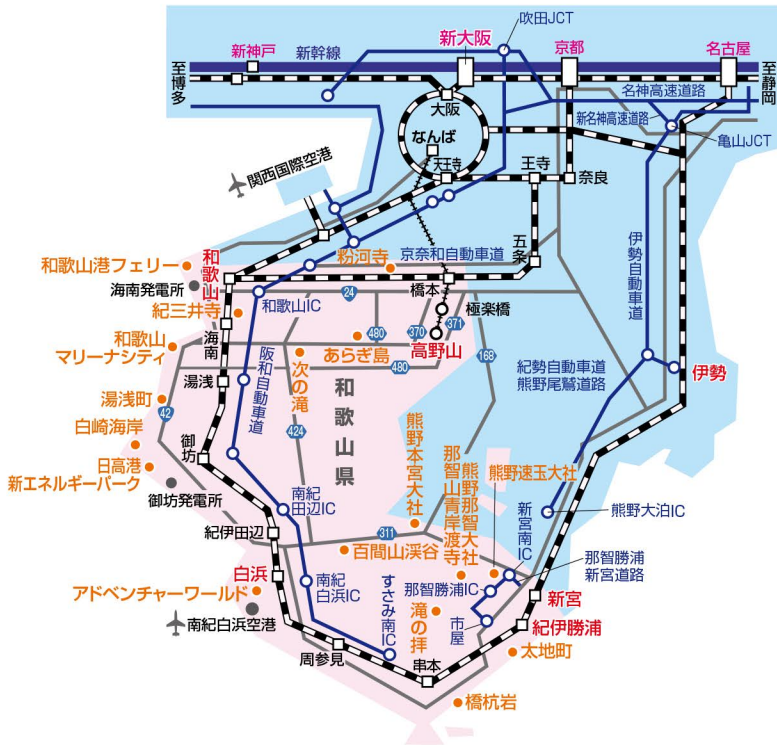
from大阪 吹田JCT(近畿自動車道)→松原JCT(阪和自動車道)→和歌山IC(約1時間10分)

from岡山 岡山IC(山陽自動車道)→神戸JCT(中国自動車道)→吹田JCT(近畿自動車道)→松原JCT(阪和自動車道)→和歌山IC(約3時間20分)

from広島 広島IC(山陽自動車道)→岡山JCT→神戸JCT(中国自動車道)→吹田JCT(近畿自動車道)→松原JCT(阪和自動車道)→和歌山IC(約5時間)

◎和歌山ICから南紀田辺ICへの所要時間(約1時間)

アクセスガイド



科学博物館・エネルギー関連施設ガイド

和歌山県にある科学博物館・エネルギー関連施設は魅力に溢れたものばかり。散歩気分ですらりと出かけ、見て、遊んで、体験してみれば楽しい発見が待っている。

和歌山県立自然博物館

豊かで美しい和歌山県の自然を紹介する施設として水にすむ生き物を中心に動・植物、昆虫、貝、鉱物・化石などの標本を展示・収蔵しており、楽しみながら学習できる。第一展示室は水族館コーナーで県内にすむたくさんの生き物を水槽で展示。第二展示室では標本を中心としたコーナーで色々な生き物を標本や模型で紹介。また、研究や教育普及活動を通じ、地域に親しまれる博物館を目指している。

- 所在地/海南市船尾370-1
- 問い合わせ/☎073(483)1777
- アクセス/阪和自動車道「海南IC」から車で10分
JR海南駅から和歌山市方面行きバス(10分)「琴の浦」下車徒歩3分

日高港新エネルギーパーク

新エネルギーのPR館と公園施設からなる複合施設で、マイクロ風力発電や太陽光発電設備、マイクロ水力発電の水車などを設置し、紹介している。PR館では各種展示や立体図鑑、参加型ゲームで新エネルギーを分かりやすく体験できる。また、日高地域の観光紹介などのギャラリーも設置している。



新エネルギーが学べるPR館

併設の公園施設には、全長120mのサーキットがあり、太陽光パネル装備のソーラーカーのドライブが楽しめる。(無料)

- 所在地/御坊市塩屋町南塩屋450-10(日高港企業用地内)
- 問い合わせ/☎0738(20)9001
- アクセス/阪和自動車道「御坊IC」「御坊南IC」から車で10分
JR御坊駅から印南町役場前行きバス(10分)「王子川」下車徒歩3分

白浜エネルギーランド

エネルギーの過去・現在・未来を学んだり、恐竜時代へのタイムトラベルや、常識をくつがえす不思議体験など様々な体験ができる。主な展示は①エントランスホール:恐竜の全身骨格レプリカ②自然エネルギーを利用したミニチュア未来都市「太陽の街」③ジュラシックツアー:恐竜時代をテーマに映像にあわせ座席が動く体感シミュレーター④錯覚を利用した異次元空間「パラレルワールド」⑤ミステリーゾーン:視覚や平衡感覚を利用した不思議な空間⑥「4Dライドマシン」:3D画像(CG)とライドマシンが融合した最新のアトラクション——など。

- 所在地/白浜町3083
- 問い合わせ/☎0739(43)2666
- アクセス/紀勢自動車道「南紀白浜IC」から車で約10分
JR白浜駅から三段壁方面行きバス(約15分)「白良浜」下車徒歩すぐ

※1面の写真は内山りゅう氏の撮影(タイトル「水色」撮影場所:日置川水系安川渓谷)。また、写真提供および協力は和歌山県、白浜町、公益社団法人和歌山県観光連盟、一般社団法人南紀文化交流公社、アドベンチャーワールドの皆さん。

和歌山県観光ホームページ

和歌山観光情報

検索

